

令和5年度第1回古賀市スポーツ推進審議会 会議録 (要約筆記)

【会議の名称】 令和5年度第1回古賀市スポーツ推進審議会

【日時・場所】 令和5年7月4日(火) 18:30～20:00
リーパズプラザこが交流館3階302洋室

【審議会次第】

1. 開会
2. 教育部長のあいさつ
3. 審議会成立の報告
4. 委員及び職員の紹介
5. 会長及び副会長の選出について
6. 会長あいさつ
7. 概要説明及び議事
 - (1) 第2次古賀市スポーツ推進計画の中間見直しについて
 - (2) 第2次古賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
 - (3) 運動・スポーツ(身体活動)に関するアンケート結果について
8. その他
9. 閉会

【傍聴者数】 0人

【出席委員等の氏名】

委員：本多壮太郎委員(会長)、吉永春男委員(副会長)、
高原友彦委員、薄秀治委員、伊藤一哉委員、齋藤光範委員、
花田亜紗美委員、山本康介委員、大森睦子委員、平島信幸委員、
井浦政義委員、吉田直美委員

事務局：横田浩一教育部長、生涯学習推進課 樋口武史課長、渋田孝治
参事補佐兼スポーツ振興係長、山本英士朗主任主事、佐藤智香
主任主事、荒川登志子主事

【欠席委員の氏名】

森本泰史委員、野田一郎委員、智原英樹委員

【庶務担当部署名】 生涯学習推進課

【委員に配布した資料の名称】

- ・ 運動・スポーツに関する取組（令和3年度～4年度） 別紙1
- ・ 第2次古賀市スポーツ推進計画における基本目標毎の指標の達成状況 別紙2
- ・ 2017年度及び2022年度アンケート結果調査比較表
- ・ 第2次古賀市スポーツ推進計画中間見直し スケジュール案
- ・ 第2次古賀市スポーツ推進計画 概要版リーフレット
- ・ 古賀市スポーツ推進審議会委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 傍聴要領（案）
- ・ 令和5年度 第2回古賀市スポーツ推進審議会の日程調整について
- ・ 第2次古賀市スポーツ推進計画
- ・ 令和4年度実施の運動・スポーツ（身体活動）に関するアンケートの結果について

【審議会概要】

1. 開会

2. 教育部長あいさつ

3. 審議会成立の報告

4. 委員及び職員の紹介

5. 会長及び副会長の選出について

6. 会長あいさつ

(本多会長)

議事録署名委員については伊藤一哉委員にお願いしたい。

7. 概要説明及び議事

(1) 第2次スポーツ推進計画の中間見直しについて

【事務局による概要説明】

本計画はスポーツ基本法第10条『地方スポーツ推進計画』の規定に基づくスポーツ推進に関する計画で、本市におけるスポーツ振興の目指すべき姿や方向性を示すもので、今後のスポーツ施策推進や関係団体、機関におけるスポーツ振興の指針となるもの。

現在、策定されている第2次古賀市スポーツ推進計画は、2019年度から2028年度までの10年間を計画期間としており、計画期間の中間年度である2023年度に見直しを図ることとなっている。

第2次スポーツ推進計画の中では、基本目標毎に複数の指標を示している。2018年度（現状値）の数値は、前回2017年度に実施しましたアンケートの結果となっており、2022年度のアンケート結果と比較して2023年度目標値を達成しているかを確認し、この目標値の見直しなどを今後の審議会で行っていききたい。

審議会のスケジュール案を添付しており、今年度は合計7回の審議会を予定している。その中で4つの基本目標の目標値の見直しを図っていききたい。

また、中学校の部活動について、休日の活動については段階的に地域に移行していくことが基本とされており、将来的には平日の部活動も移行することとされている。この件に関し、計画の中間見直しにも関連すると思われることから、今後の審議会において検討していただきたい。

【審議】

(本多会長)

部活動の地域移行について、審議会とは別に検討協議会などたちあがっているか。

(事務局)

部活動の地域移行については、教育委員会の学校教育課で別に審議会を設けており、関係団体と話をすすめているところである。現在のところあまり進捗はないが、今年度においてそのような取組みを行うこととなって

いる。

(薄委員)

部活動の地域移行について、スポーツ推進審議会において議論するのか、それとも教育委員会で決まった事項をスポーツ審議会で議論するのか。

(事務局)

年間スケジュールでいうと第2回目と第3回目の審議会で子どもの内容について深めたい。本多会長におかれては、県の部活動の組織に所属しており、審議会で学習の時間をとりながら、今後どうすれば部活動の地域移行がすすむのか審議したい。学校教育課の審議会は審議会として、こちらの審議会でもスポーツ推進を図っていく上でこのような対策が必要ではないかとか、そのような意見を十分にいただきたいと考えている。

(吉永委員)

8月の第2回、9月の第3回の中間見直しの中で、部活動の地域移行について意見を挙げるといふことと、学校教育課としても審議会が設けられているといふことで、同時進行でお互いがばらばらになるんじゃないかという懸念があった。基本目標の順番どおりに審議すると思うが、審議する行程をずらすとか、あるいはお互いの情報を交換できるとか、そのようなことを考えているのであればお聞きしたい。なければ今後、検討していくべきと考える。

(本多会長)

いわゆる連携協力を大切にすることか。

(事務局)

第一にこの審議会において多くの意見をいただきたい。部活動の地域移行について学校教育課ですすめていく、生涯学習推進課ですすめていく、それは構わないと考えている。本来は部活動の地域移行についてはスケジュールの後の方で審議することを考えていた。しかし行政にとって一番重要な予算化するという作業が10月に始まる。その後であれば、良いアイデアをいただいても予算化できないという制約があることから、事務局としては部活動、子どもに関わることは第一テーマであると思っている。その点を考えて最前に組んだ。この審議会で議論する内容、そして学校教

育課主体の審議会は、当然、生涯学習推進課も参加することからこの場で話した内容はお伝えする。

(齋藤委員)

今も健康でラケットを振れるのは、自分自身というよりも周りの人たちの協力があってできている。子どものときからどうやってやっていくのか大人が示してあげないと、ただコーチがついて教えれば良いということではないとこの5年間で気が付いた。部活動の地域移行について中間見直しで検討していければと考える

(2) 第2次古賀市スポーツ推進計画の進捗状況について

【事務局より概要説明】

第2次スポーツ推進計画の大きな4つの基本目標につきまして、主な取り組みを紹介する。

1つ目の基本目標である「子どもの運動機会の拡充」の指標2『スポーツ指導に携わる指導者への実践的かつ効果的な研修会実施』につきまして、目標値を2回以上/年としている。市内社会体育団体代表者や監督、コーチ、保護者や、中学校部活動指導者等を対象に、6月は「熱中症・救急救命研修会」、3月には「子どもの発達・発育を正しく理解した実技の実践研修会」を実施しており、目標値である2回以上/年を達成している。

2つ目の基本指標「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」の指標4『障がい者スポーツ体験会への参加者数』について、目標値を「増加」としている。2017年度では40人/年であった参加者が、2022年度には120人/年に増加しており、目標値である「増加」を達成している。これは古賀市スポーツ月間のパラスポーツ体験イベントを開催しており、車いすバドミントンや車いすテニス、ブラインドサッカーを行い、それぞれの参加者の合計数が120人となっているもの。

3つめの基本目標「気軽にスポーツに関わることができる環境づくり」の指標2『18歳以上の市民が「歩いてん道」を認知している割合』について、目標値を50%としている。64.1%の方が認知しており、目標値である「50%」を達成している。

4つめの基本目標「スポーツをツールとした地域活性化」の指標2『オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツイベントの実施』について、目標値を「維持・継続」としている。2020東京オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツ協会を中心に「古賀市スポーツ月間」を令和4年度

に新設している。例年10月を古賀市スポーツ月間としており、今後もこの期間に各種スポーツイベントを予定していることから、目標値である「維持・継続」を達成しているところである。

その他、別紙1のとおり様々な取組みを行っているが、令和4年度の新たな取組みを中心に説明する。子ども運動機会の拡充に関する基本目標について、運動遊びの推進として青少年育成課が実施しており、かづるっ子広場という事業で2つの取組みがある。一つは長距離走の走り方教室、約40名の参加があり、手作りモルックを使った競技を行い、こちらについては53名の参加がっている。次に成人に関しまして、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進につつまして、令和4年度より毎年10月をスポーツ月間と定め、この期間に様々なイベントを行っており、これまでも10月は市民健康スポーツの日と、様々な取組みを行ってきたが、スポーツへのきっかけづくりを一層すすめていく取組みになる。

健康づくりにつながる運動・スポーツとして、今年の3月にVリーグ入りを目指す女子バレーボールチーム、福岡ギラソールとフレンドリータウンに関する協定を締結しており、今後、イベントの際に福岡ギラソールの選手に参加いただいたり、バレーボール教室の開催などで交流を深めていくこととしている。

次にスポーツのユニバーサルデザイン化に関して、福祉課の取組みとして、粕屋地区身体障害者福祉協会ボッチャ大会、スポーツ大会としてグラウンドゴルフ大会を実施している。

基本目標「気軽にスポーツに関わることができる環境づくり」について、スポーツ施設の有効利用として令和4年10月に古賀市公共施設予約システムの更改を行っている。これにより施設利用料のクレジット決済が可能となっている。同じく10月から中学校体育施設の日曜開放を行っており、従来は体育館のみ平日と土曜日の開放を行っていたが、日曜日の8時30分から22時まで体育館やグラウンド、武道場、テニスコート、野球場の開放をしている。

効果的な情報提供として、これまでもスポーツ振興係のLINEアカウントを利用して定期利用団体に情報提供を行っていたが、今年の1月からは古賀市の公式LINEアカウントの運用が始まり、このアカウントを利用した運用を始めている。これにより、定期利用団体以外の市民や市外の方にも情報を一早く届けることができるようになっている。

スポーツをツールとした地域活性化について、地域リハビリテーションにおけるウォーキング活動支援として、運動指導士によるウォーキングの実技支援を実施している。

令和4年度はコロナ禍ではあったが、令和2年度、3年度に実施できなかった

たイベントを概ね実施できている。

【審議】

（齋藤委員）

最初のスポーツへのきっかけづくりについて、毎年10月に行われるスポーツ月間のイベントが日曜日に開催されるが、健康福祉まつりなど様々なイベントが開催され、各種イベントが重なることが非常に多い。道路環境美化も重なっており、全て同じ日にするというのは違うのではないか。きっかけづくりなのにそのようにしたらいけない。

（吉永委員）

スポーツ協会でパラスポーツ体験を日曜日にしたということで、おとしは試みとして土曜日に開催したところ様々な方に参加いただいた。しかし、昨年度、日曜日に開催したところ人を集められないといった声があった。来年はパラスポーツ体験を土曜日に開催することとしている。ただ、仕組みとしてたくさんの方に参加してもらいたい。古賀市として発信の仕方について事務局にお願いしたいし、スポーツ協会としては生涯学習推進課と一緒に働きかけ、月間という意味をもっと地域に広めたいというスポーツ協会の思いがある。

（事務局）

体育の日は10月10日っていうのが感覚的にあって、何故かと言うと1964年の東京オリンピックである。10月はスポーツ月間だという自然な思いがある。しかし10月は地域の行事が多いということで、10月はスポーツ月間という果たしてその設定で良いのか。そういったところをみなさんの意見をいただければと思う。

（吉永委員）

環境について、古賀市公共施設予約システムの更改、中学校体育施設の日曜開放ということだが、今現在、どのような団体の利用がされているのか、

状況が分かれば示していただければと思う。もうひとつ、市公式LINEの利用者数について、どのくらい登録者が増えたとかそういう資料、分かるものがあれば示していただきたい。

（事務局）

具体的な数字を示せる資料は持ち合わせていないが、中学校体育施設の日曜

開放について稼働率は低い状況。まだまだ社会体育団体の利用については浸透していないというところである。

市公式LINEについて、正しい数字は次回審議会でも報告する。

(3) 運動・スポーツ（身体活動）に関するアンケート結果について

【事務局より概要説明】

(事務局)

2022年度において運動・スポーツ（身体活動）に関するアンケートを実施していることから、主な項目を挙げて説明を行う。

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査における」体力合計点の結果（小・中学校）について、これはアンケート結果ではなく、小・中学校で行われる体力テストの結果である。結果としては、小学校においては目標値である「全国、県平均以上」を達成しているが、中学校においては男子が県平均以下、女子が全国、県平均以下となっており、小・中学校ともに全国、県平均以上とはならなかったことから未達成。

指標3の「放課後や学校が休みの日に外遊びや運動をしている児童・生徒の割合」について、目標値を70%としているが、小・中学校ともに前回アンケートよりも低い数値となり指標を達成できていない。

指標1の「18歳以上の市民が週1回以上運動・スポーツを実施する割合」について、目標値を65%としているが、62.3%という現状値となっており、この指標も達成できていないところである。

指標1「18歳以上の市民が1年間に運動やスポーツのために公共スポーツ施設を「利用したことがある」と答える割合」についても同様に、32.9%から21.9%に低下していることから達成できていない。

しかし、指標4「5歳児保護者が子どもと一緒に運動やスポーツをする割合」については、62.8%から75.6%に増加している。

『2017年度及び2022年度アンケート調査比較表』という資料に記載があるが、「運動・スポーツをしていない（できない）理由比較」「病気やけがなど健康上の理由から」という理由が増加している。また、「あまり運動をしない理由（中学2年生）」の「運動をするより家で遊んだ方が楽しいから」という理由が増加している。以上のことから考えられることが、外出の機会が減り、家で過ごす時間が増加した新型コロナウイルスの影響であると想定される。各種イベントの開催がなくなり、スポーツや運動をする機会は減少したが、家で過ごす時間が増加した保護者が、子どもと過ごす時間が増えたことが要因ではないかと考える。

【審議】

(齋藤委員)

少子化で子どもが減って遊ぶ相手がいないということも関係しているのか、スポーツをしたくてもしないのではないか。昔は遊ぶとなると人が集まっていた。どうなのか薄委員に聞いてみたい。

(薄委員)

幼稚園に関して言えば、子どもたちはスポーツという感覚ではないと考えていて、スポーツをしているという感覚は5歳とか6歳くらいからでてくると思う。スポーツをする環境やきっかけがないというのは、幼稚園児にはあてはまらないのかなと。小学生、中学生くらいのときに子ども主体の環境を作っていくことが大きな課題ではないかと思う。次回以降のテーマになると思うが、主体は子どもじゃなくなっていると感じざるをえない環境であり、小中学生にスポーツをするきっかけをつくるということに関しては、そうせざるをえない環境を大人がつくっているのではという感覚が強くある。

(平島委員)

高校生を相手にしているが、昔と比べると忙しすぎて、環境が良くなったというべきか、選択肢がたくさんある。スポーツやピアノだったりおけいこだったり、選択肢が増えてみんなで集まる機会が減った。個別で行動するのが多くなったと感じる。高校生は特にスマホを使う時間が圧倒的に増えていて、それが運動しないことにつながっているのかと感じる。

(大森委員)

子どもが減っていると思うのと、お年寄りが増えて公園や体育施設に行ってもゲートボール、グラウンドゴルフとかはよく見かけるけど、子どもと保護者が遊んでるという環境が少ないないかなと感じる。

(伊藤委員)

運動とスポーツの捉え方が少し変わってきたのかなと思う。アンケートの聞き方を工夫しないとお家で体を動かしているけど、外にでていないから運動していないとかそういった思いも多少反映されるのかなと思う。

子どもの運動教室・スポーツ教室を本業としているが、スポーツや遊びの境目、そういった絶妙にアンケートに反映されない部分が多いのかなとも感じて

いる。すごく能力が高くて専門性が高い子が増えているが、運動をしている子としていない子の格差が大きいと感じる。そういうところをうまく変えていけたらなと感じる。

（花田委員）

子どもを外に出しづらい環境にはなつたと感じる。自分が子どもの頃は、外に遊びに行くと言えばすぐに外に出れたが、今は子どもが外に「行ってきます」と言っても「行ってらっしゃい」と気軽に言えないところがある。

スポーツ施設で働いており、基礎体力を向上させる教室があるが、すごく人気がある。しかし、極端に言えば私たちが子どもの頃は家でお金を払わずにできた事。なぜ教室に参加したか理由を聞くと、「外が暑い」「危険がいっぱいある」「環境が良い中で遊ばせたい」といった保護者の声がある。保護者も子どもを守りにはいつている、厳しい環境に置かないという保護者さんが増えていると感じる。一方で、一つのスポーツにのめり込む子どもさんもあるし、一つはできるけどこっちはすごく苦手だといった、できることとできないことの格差がある子どもが増えたと感じる。

（本多会長）

親としては泥んこの中で遊んで欲しいけど、行ってきますと言われると気をつけてとか、色んなジレンマがある。やはり環境をより良いものにしていきたい。次回審議会でも話していければと思う。

事務局から説明のあった運動をしない理由で、運動するより家で遊んだ方が楽しいからという理由が顕著に上昇しており、なかなか見過ごせないところがある。福岡県が行ったアンケートによると、「運動・スポーツが好き」「運動・スポーツが大切だと思う」と答えた割合が下がっている。一方で福岡県の場合、「体育が好き」という割合は上がっている。コロナ禍で外遊びの楽しさとか、大事さをうまく実感できなかった3年間だったのかと。色んな規制や制限があって、今から立て直していかなければならないと感じる。

（齋藤委員）

運動するより家で遊んだほうが楽しいからというのは、アンケートでは「一人で」とか、「兄弟で」とか「友達と」とかは質問になかったのか。

（事務局）

アンケートにおいて人数的な指定はしていない。

(齋藤委員)

何か理由があつて運動するより家で遊んだ方が楽しいからと答えているはず。急激に倍近く増えているのは、何が楽しいのか、楽しいものがあったはず。

(吉永委員)

昔は YouTube なんてなかった。自分の孫や子どもは、こぞつて YouTube をずっと観ている。ゲームをするか YouTube を観ている子の割合がはるかに多くなったのではと推測する。

(齋藤委員)

コロナ禍で2年3年と外で遊ぶことができなかった。にも関わらず小学生の体力テストは全国・県平均を上回っている。中学校は反対に落ちている。中学校は減って小学校はある程度、維持できている。この差は何なのかと思う。

(井浦委員)

以前小学校の校長をしていたが、通学距離が長い子がたくさんいた。必然的にシャトルランの数値が高かった。6年生になれば毎年100キロ歩くようなプログラムがあつて、持久力が非常に高い。そういうのが維持できている背景にあるのでは。

(本多会長)

なかなか数字だけでは分からないことがあつて、聞き取り調査しないと分からないことがある。

(吉田委員)

健康増進計画の見直し、市民アンケートの実施を行ったが、子どもから高齢者まで肥満が増えた。コロナ禍で身体活動が減ったというのもあるが、食生活も変化したなど思う。

スポーツ人口を増やすのか、それ以前の生活活動を増やすのか、そしてそれから少しずつスポーツにつなげれると思う。

(本多会長)

生活運動は身体活動であり、この場でのスポーツはウォーキングを含んでおり、幅広くスポーツを取り扱っていると解釈している。

(吉田委員)

生活に落とし込めるような身体活動があれば良いと思う。

8. その他

(事務局)

次回審議会を8月中旬に行いたい。